

Acute and postacute sequelae associated with SARS-CoV-2 reinfection

Bowe B, Xie Y, Al-Aly Z. Nat Med. 2022. 28(11): 2398-2405. doi: 10.1038/s41591-022-02051-3.

全文 URL: https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC9671810/pdf/41591_2022_Article_2051.pdf

新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）感染の回数と後遺症の関係

2020年3月1日から2022年4月6日までの、米国退役軍人省の全国医療データベースを使用して、SARS-CoV-2に1回だけ感染した443,588人、2回以上の感染をした40,947人（2回37,997人、3回2,572人、4回以上378人）、SARS-CoV-2に未感染の5,334,729人を対照群として、死亡と入院および後遺症の発現を解析した。

【結果】 1回だけ感染した群をreferenceとして、2回以上の感染をした群のリスクを評価

	ハザード比 (HR)	95%信頼区間 (CI)
全死亡	2.17	1.93-2.45
入院	3.32	3.13-3.51
1つ以上の後遺症	2.10	2.04-2.16
心血管疾患	3.02	2.80-3.26
血液凝固異常	3.10	2.77-3.47
糖尿病	1.70	1.41-2.05
倦怠感	2.33	2.14-2.53
消化器系障害	2.48	2.35-2.62
腎機能障害	3.55	3.18-3.97
メンタルヘルス	2.14	2.04-2.24
筋骨格系障害	1.64	1.49-1.80
神経系障害	1.60	1.51-1.69
肺障害	3.54	3.29-3.82

※ 論文の結果と figure 1 より要約者が作成

複数回の感染により死亡や入院および後遺症のリスクが上昇することが明らかになった。また、後遺症のリスクは、未感染群と比較して、1回だけ感染した群のHR 1.37 (95%CI: 1.36-1.38)、2回感染した群のHR 2.07 (95%CI: 2.03-2.11)、3回以上感染した群のHR 2.35 (95%CI: 2.12-2.62)であった。これら後遺症の症状は、主に急性期に認められたが、感染から6ヵ月後にも症状のある患者がいた。また、SARS-CoV-2 ワクチンの接種に関係なく後遺症の症状を認めた。すでにSARS-CoV-2に感染した人は、2回目以降の感染予防が、リスクを低減させるために重要である。

要約作成者のコメント：

これまでにSARS-CoV-2感染後の後遺症や感染後の心血管疾患のリスクの増加は報告されていたが、本論文により感染の回数と死亡や入院および後遺症のリスクが関係することが明らかになった。本論文は透析患者を対象とした論文ではないが、透析患者を対象とした論文でも、SARS-CoV-2感染1年後の心血管疾患や呼吸器関連疾患による死亡の増加が報告されている (Carriazo S, et al. Clin Kidney J. 2021. 20;15(3): 432-441)。

SARS-CoV-2のオミクロン株への変異後は、透析患者においても致死率は減少しているが、後遺症の症状継続や心血管疾患のリスク増加は重要な問題である。SARS-CoV-2ワクチンは重症化や死亡のリスクを低減するが、感染を完全に予防することはできないため、マスクや手指消毒などの対策が重要となる。

要約作成者：医療法人社団豊済会 下落合クリニック 菊地 勘